

AIDAによるドイツ研究滞在体験

- ・ 西岡千文 (京都大学 附属図書館研究開発室 助教)

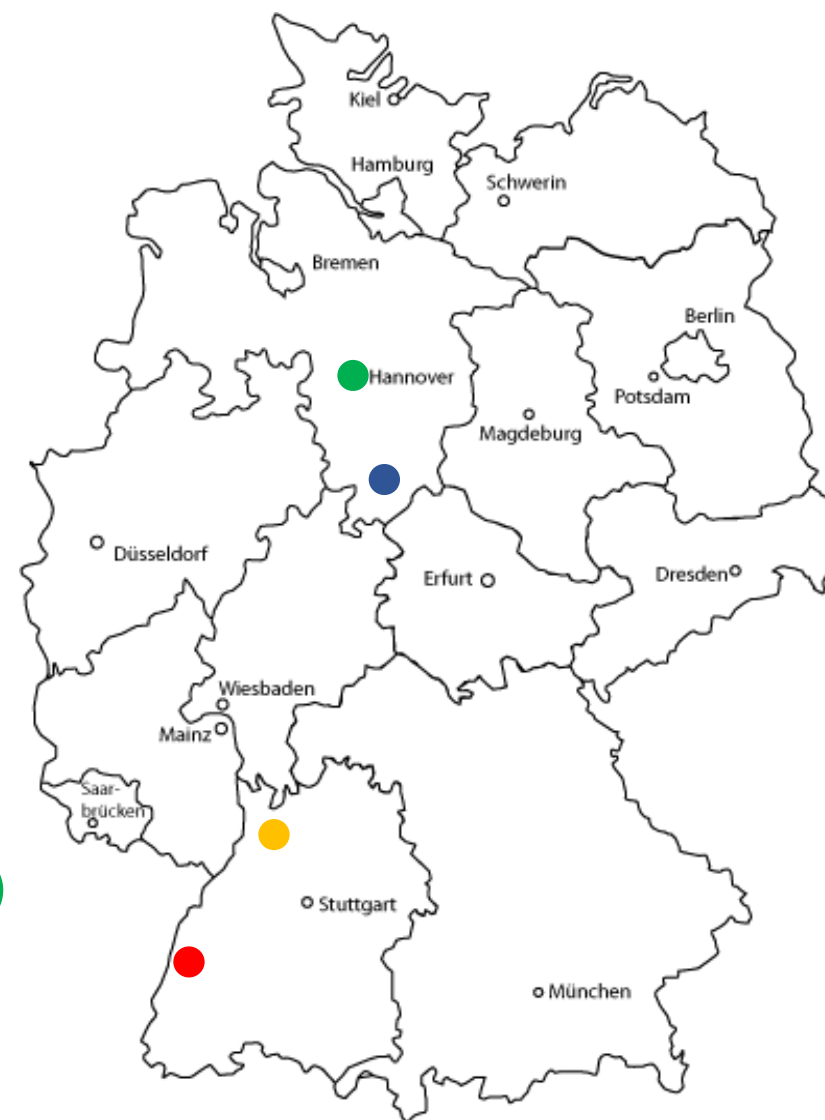
□ 自己紹介

- 西岡 千文 (にしおか ちふみ)
- 京都大学附属図書館研究開発室・助教 (2017年～)
- 博士 (工学)
 - キール大学より取得
 - 博士課程在学中の研究拠点は、ドイツ国立経済学中央図書館
 - ドイツ学術交流会 (DAAD) 研究奨学金 (長期) ・奨学生
- 研究テーマ
 - 【学術情報検索・推薦】 学習者や研究者がどのように図書や論文といった学術情報を探索しているか分析する。また、貴重資料などの一次資料の利用分析にも関心をもつ。
 - 【学術情報の構造化】 より高度な学術情報の探索の実現のため、論文などのテキストに記述されている知識や引用データを構造化する。
 - 【学術情報流通分析】 学術情報流通促進における課題を認識するため、オープンアクセスなど学術情報流通の現状分析を行い、考察する。

□ 申請した動機

発表者は、ナレッジグラフを利用した学術論文推薦システムに取り組む。推薦手法の向上や、推薦理由を説明する機能の開発には、学術情報のナレッジグラフの利用が有用であると考えた。セマンティック・ウェブ技術に関する研究開発と学術分野での実用が盛んなドイツを訪問したいと考えた。

- フライブルク大学 (2日間) ●
 - Michael Färber博士と論文推薦システムに関する共同研究についてミーティング
- 京都大学欧州拠点 (半日) ●
 - ドイツの研究機関と共同研究を推進するにあたって、助成等について情報収集
- ゲッティンゲン大学 (4日間) ●
 - 研究データ管理基盤ならびに欧州の人文学情報基盤整備プロジェクトであるDARIAHについて情報収集・ディスカッション
 - (京都大学職員研修との協働) ゲッティンゲン州立/大学図書館における研究データ管理とデジタルコレクションについて調査
- ドイツ国立科学技術図書館 (TIB) (3日間) ●
 - TIBが開発しているOpen Research Knowledge Graph (ORKG) とその応用について情報収集・ディスカッション
 - (京都大学職員研修との協働) TIBにおける研究データ管理と研究データリポジトリRADARについて調査



□ 2018年6月 訪問先決定（申請準備）

フライブルク大学

- Michael Färber博士は日本学術振興会の助成により、2017年10月～2018年9月の期間、京都大学に滞在されていたので、接点があった

ゲッティンゲン大学

- Ramin Yahyapour教授とSven Bingert博士とは、京都大学が加盟するHeKKSaGOn（日独六大学アライアンス）のData Science WGで接点があった
- 2018年4月のHeKKSaGOn学長会議でお会いした際に、訪問したいと伝えた

ドイツ国立科学技術図書館（TIB）

- 接点がなかったため、DirectorのSören Auer教授に「Open Research Knowledge Graphについて関心があるので、3～4日間程度滞在したい」という旨をメールで連絡すると、すぐに快諾の返事をいただいた
- 返信をいただけなかった場合には、なんとか訪問できないか、欧州拠点に協力をお願いするつもりであった

□ 2018年7月12日 申請書提出

□ 2018年8月6日 採択通知

- 2018年10月 訪問先に連絡し、滞在期間を調整

- 2018年12月～2019年1月 訪問先での詳細な予定の調整
 - 誰といつ面会するか？
 - ディスカッションするトピックの調整

- 2019年1月16日～2019年2月1日 AIDAによるドイツ研究滞在



□ フライブルク大学

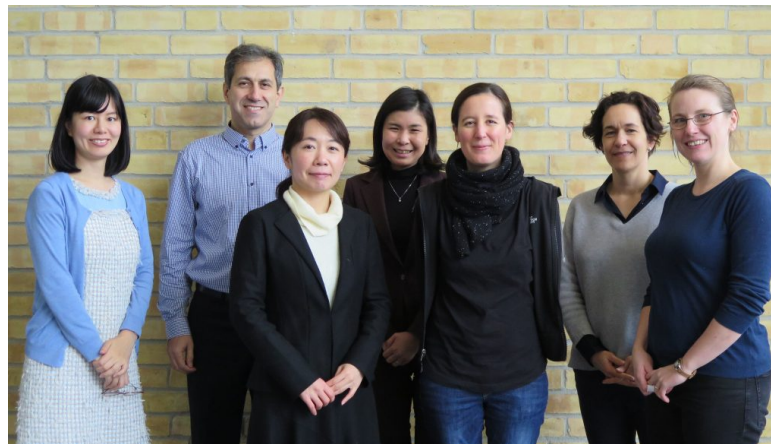
- Michael Färber博士と、既存の学術情報のナレッジグラフやその推薦システムへの応用に関してディスカッション
- 国際会議へ共著論文の投稿
 - Michael Färber, Chifumi Nishioka, Adam Jatowt. “ScholarSight: Visualizing temporal trends of scientific concepts”, In Proceedings of the 19th ACM/IEEE Joint Conference on Digital Libraries, pp. 436-437, IEEE, 2019.
 - Chifumi Nishioka and Michael Färber. “Evaluating the Availability of Open Citation Data”, In Proceedings of 4th Joint Workshop on Bibliometric-enhanced Information Retrieval and Natural Language Processing for Digital Libraries, 2019.
- ランチやカフェタイムで、研究室の博士課程の学生らとも交流

□ ゲッティンゲン大学

- 学術情報への永続的なアクセスを保証するための永久識別子などに関する研究開発についてディスカッション
- 京都大学職員研修で訪問していた図書系職員と、オープンサイエンスとデジタルコレクション構築に関する図書館の取り組みについてインタビュー



- ドイツ国立科学技術図書館（TIB）
 - 京都大学職員研修で訪問していた図書系職員と、オープンサイエンスと研究データ管理に関する図書館の取り組みについてインタビュー
 - Open Research Knowledge Graph（ORKG）について紹介していただき、その開発手法や将来の展望について意見交換
 - 毎週開催されている研究セミナーにて、学術論文推薦システムに関する研究について発表して、ORKGの学術論文推薦システムへの応用について意見交換



今後の展望と大学・社会に求めること

□ 今後の展望

- 京都大学が加盟するHeKKSaGOn（日独六大学アライアンス）等の枠組みをうまく利用して、共同研究を進めていく
- 申請できるような助成金があれば、積極的に申請したい

□ 大学・社会に求めること

- 若手研究者が、ドイツの若手研究者との共同研究に使用できるような助成
 - 基本的に、国外機関の研究者を研究分担者とすることはできない
 - 日本学術振興会（JSPS）・二国間交流事業共同研究等、国外機関との共同研究のための助成金は存在するが、採択者はベテランらしき研究者が多い
- （現在も支援していただいているが、）共同研究に関する助成金の情報提供

- 受入期間
 - フライブルク大学
 - ゲッティンゲン大学
 - ドイツ国立科学技術図書館 (TIB)
 - 京都大学欧州拠点

- 京都大学学術研究支援室 (KURA)
 - 天野絵里子URA
 - 仲野安紗URA
 - 鈴木環URA